

令和2年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

I 調査概要

- 1 目的 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定された「横浜市スポーツ推進計画」において、「する」「みる」「ささえる」スポーツの向上に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決にむけた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者 (1) 横浜市に居住する満20歳以上の調査機関登録者（モニタ）
(2) 横浜市に居住する満20歳以上で、調査機関登録者（モニタ）のうち、本人もしくは同居の家族に障害のある方
- 3 抽出方法 (1) 性別・年齢・居住区の構成比率を基にモニタの中から有意抽出法により抽出
(2) モニタの中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間 令和2年10月9日（金）～10月26日（月）
- 6 回収状況 (1) 有効回答数：1,995件（ウェイトバック集計後2,000件） (2) 有効回答数：393件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数(2,000)でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。

II 結果概要

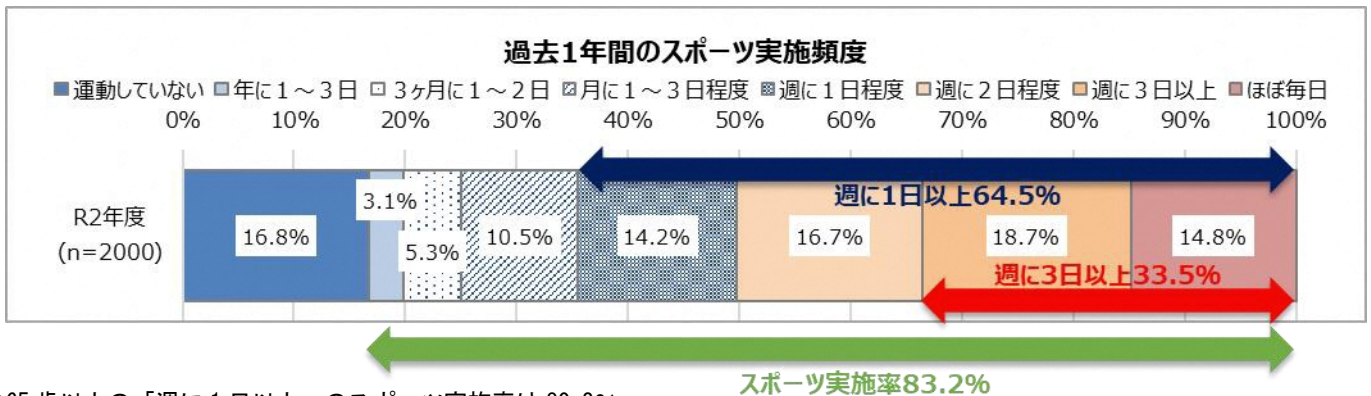
「する」スポーツ

●「週に1日以上」のスポーツ実施率は64.5%

令和元年度の55.8%より8.7ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（65%）には0.5ポイント及ばなかった。

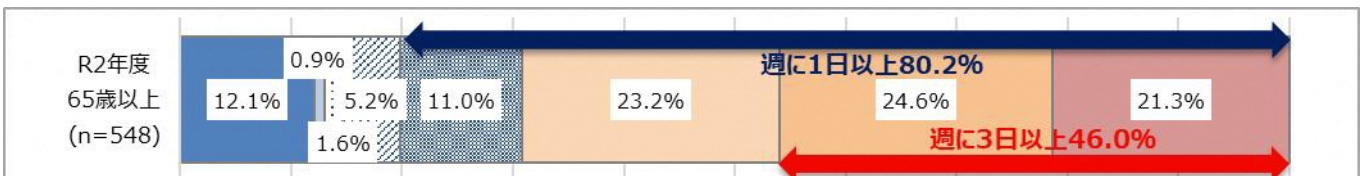
●「週に3日以上」のスポーツ実施率は33.5%

令和元年度の29.1%より4.4ポイント増、市の目標（30%）を3.5ポイント上回った。



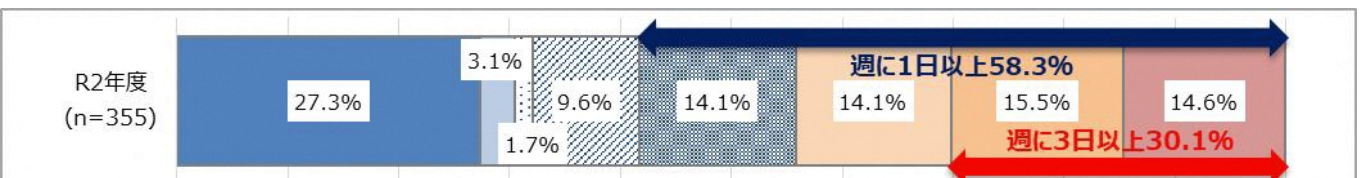
●65歳以上の「週に1日以上」のスポーツ実施率は80.2%

令和元年度の74.8%より5.4ポイント増、市の目標（70%）を10.2ポイント上回った。



●障害のある方の「週に1日以上」の実施率は58.3%

令和元年度の36.7%より21.6ポイント増、市の目標（40%）を18.3ポイント上回った。

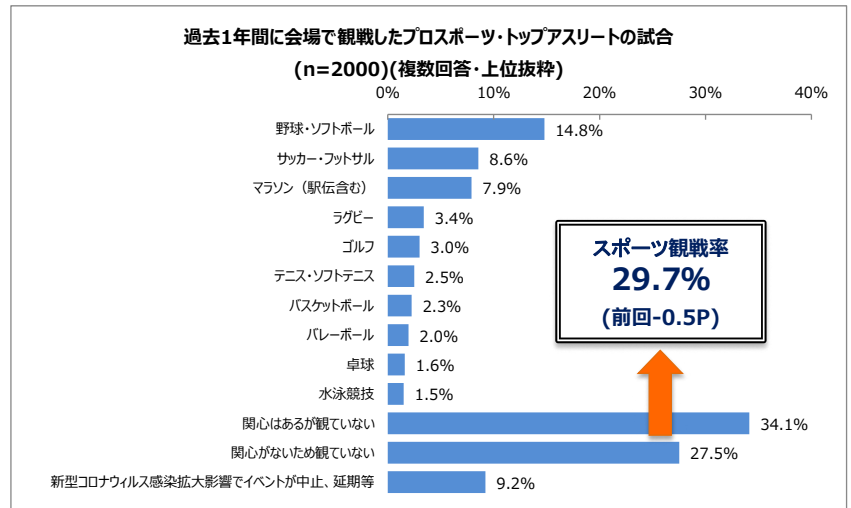


「みる」スポーツ

●過去1年間の会場での観戦率は29.7%

令和元年度の30.2%より0.5ポイント減、市の目標（50%以上）には20.3ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、トップスポーツの開催が制限されていたものの、観戦率に大きな影響はなかった。

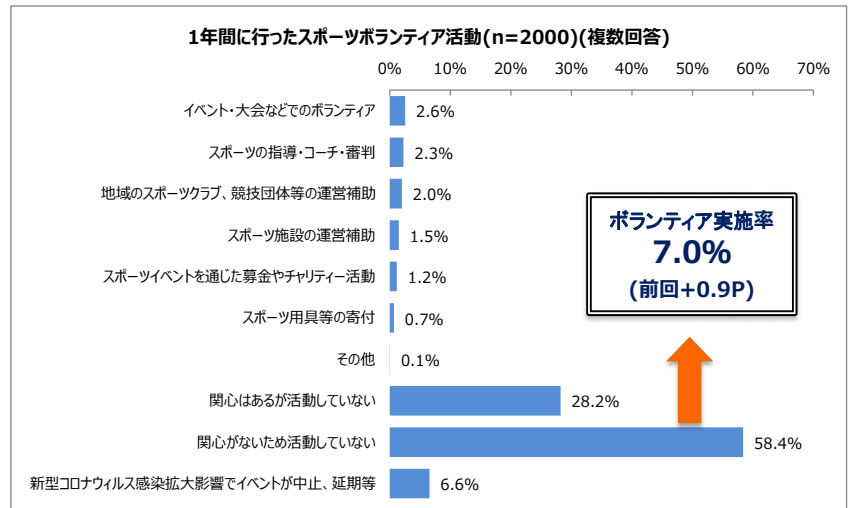


「ささえる」スポーツ

●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は7.0%

令和元年度の6.1%より0.9ポイント増、市の目標（10%以上）には3.0ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツイベント等が中止になったものの、参加率は増加する結果となった。

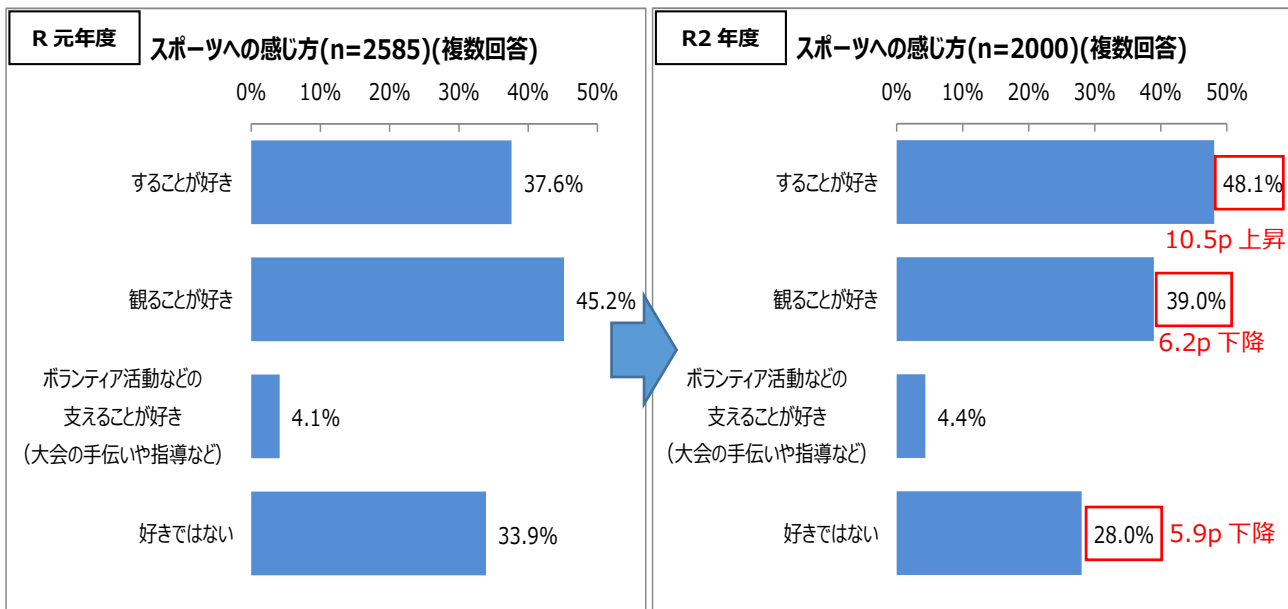


令和元年度調査からの変化

新型コロナウイルス流行に伴う緊急事態宣言下での行動・外出の自粛や、公共施設・スポーツ施設の活動・営業自粛などの下でのスポーツの行動・意識の変化を、令和元年度の調査結果と比較した。

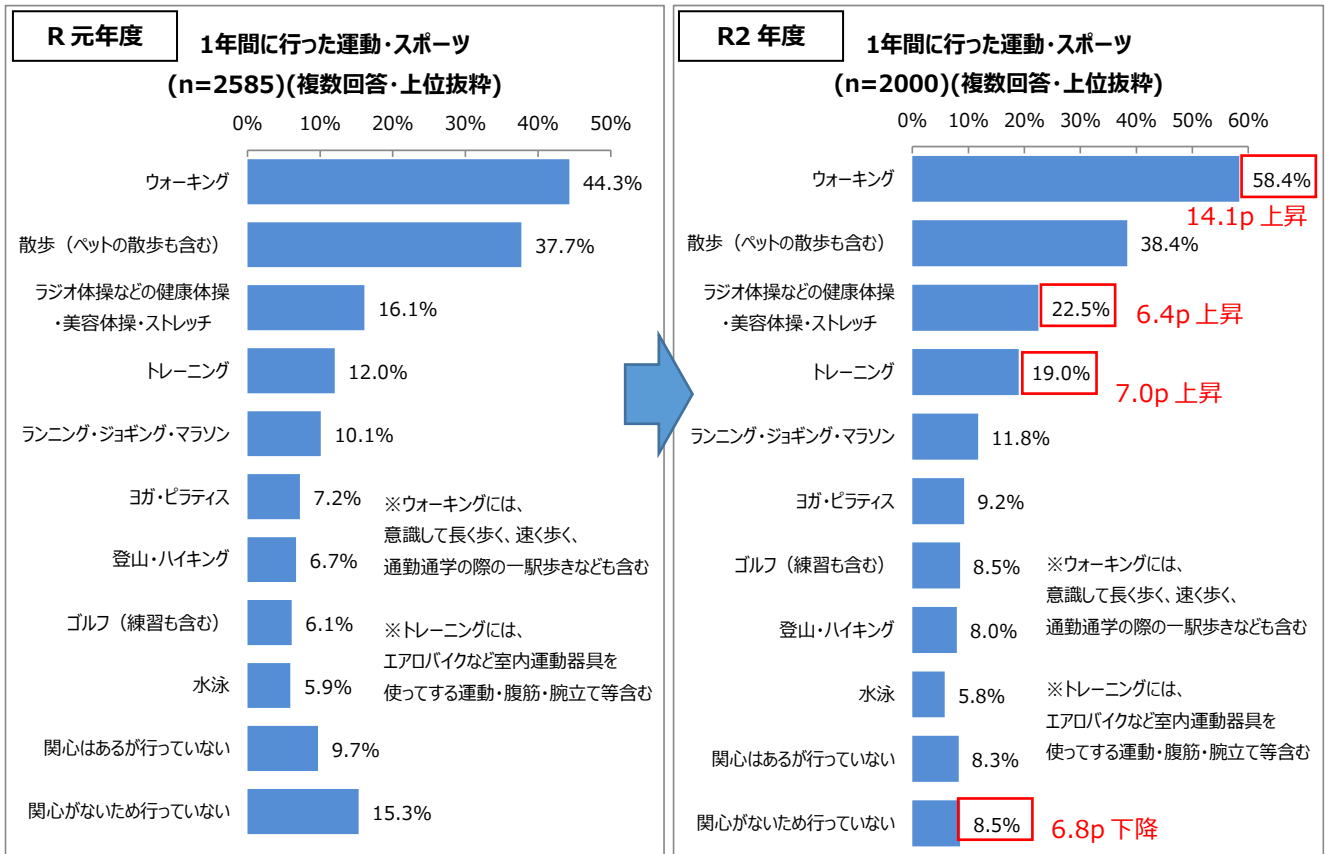
●スポーツへの感じ方の変化

スポーツに対して、“観る・好きではない”から“する”への能動的なかわり方への意識の変化がみられる。



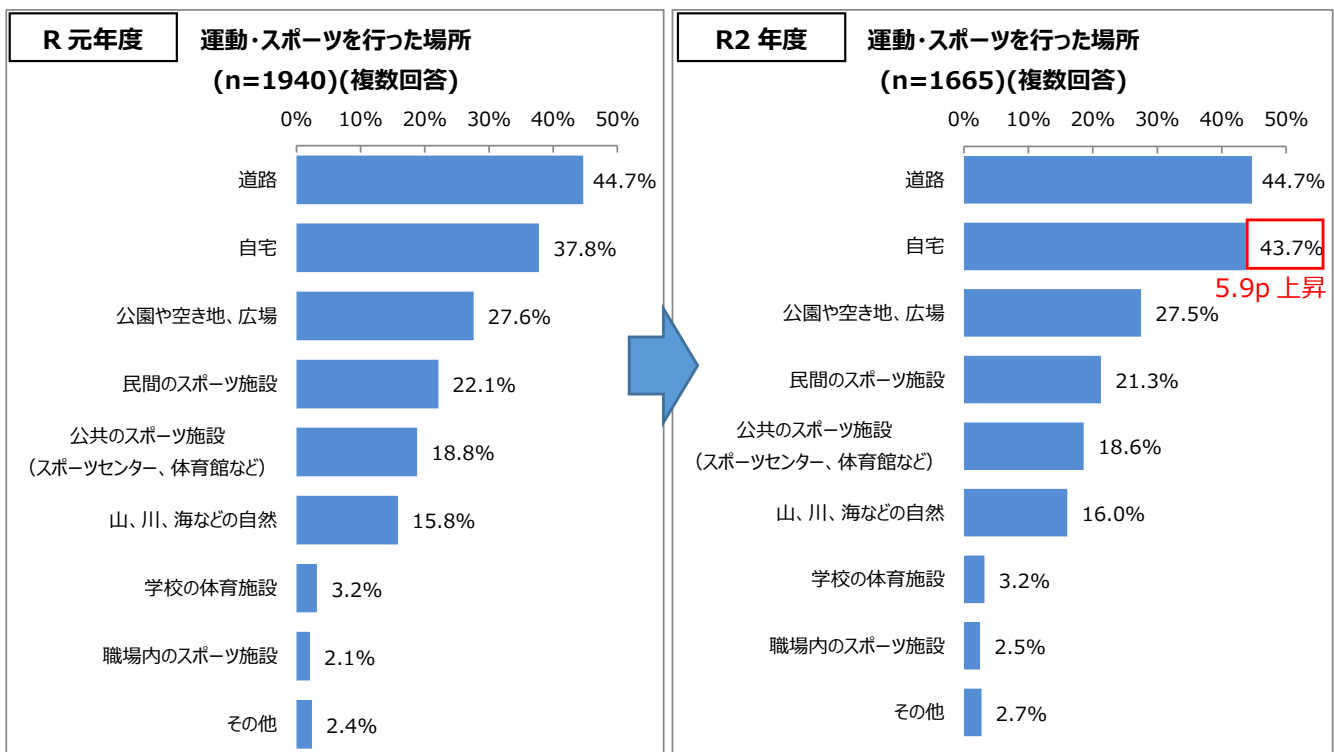
●過去1年間に行った運動・スポーツ

「ウォーキング」「ラジオ体操等」「トレーニング」など、気軽にできるスポーツの実施率が増加している。「ウォーキング」はR元年度44.3%に対し、R2年度は58.4%と14.1ポイント上昇している。



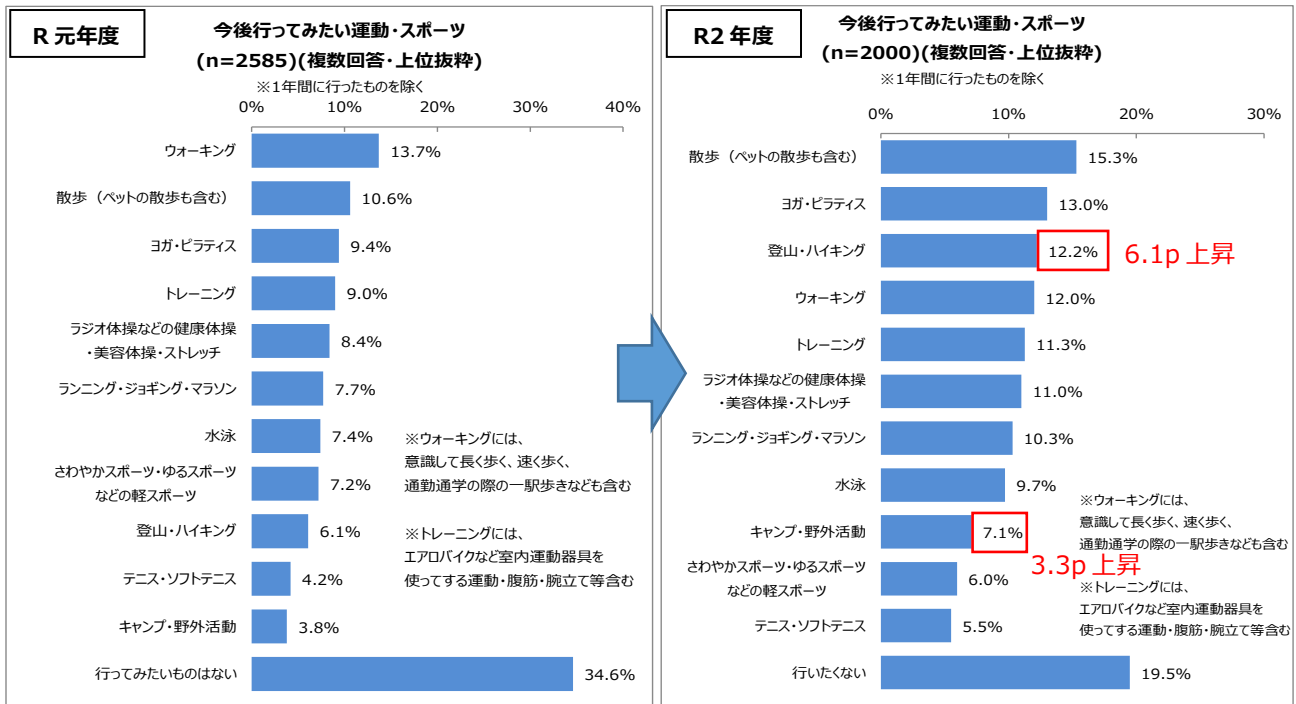
●運動・スポーツを行った場所

「自宅」はR元年度37.8%に対し、R2年度は43.7%と5.9ポイント上昇している。



●今後行ってみたい運動・スポーツ

R元年度に比べR2年度は「登山・ハイキング」が前年9位（6.1%）から3位（12.2%）と大きく順位を上げているのが目立つ。また、前年上位10位以下であった「キャンプ・野外活動」がR2年度は9位（7.1%）となった。



以上の結果から、運動・スポーツを実施する意向が高まっており、軽い運動や身近な場所からの取り組みがみられる。今後は自然の中での活動への意向が見られる。

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心について

令和元年9月～11月に開催されたラグビーワールドカップは、「ラグビーへの関心が高まった」が令和元年度の18.1%より12.9ポイント増の31.0%となり、市民の関心が高まっていることがわかる。

「オリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」は令和元年度の31.4%より3.3ポイント増の34.7%となった。また、「オリンピックを会場で観戦したい」は令和元年度の20.6%より4.9ポイント増の25.5%、「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」も令和元年度の13.0%より2.6ポイント増の15.6%となった。

新型コロナウイルス感染症により大会開催が1年延期したものの、大会への関心は昨年度より増していると言える。

Ⅲ まとめ

令和2年度は、「週に3日以上」のスポーツ実施率及び65歳以上の「週に1日以上」のスポーツ実施率、障害のある方の「週に1日以上」のスポーツ実施率が市の目標を上回った。また、スポーツ観戦率以外のすべての項目が令和元年度を上回った。

その要因として、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、運動の必要性に対する認識が高まったことなどが考えられる。

Ⅳ 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。

なお、今年度の結果については、調査会社変更に伴い、回答者の特性に違いが生じています。そのため、報告書第6章にて今年度の回答者の属性（職業・収入・結婚・子どもの有無等）を昨年度の属性分布に一致させ、ウェイトを調整したうえで再集計、考察したものを掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

【令和2年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和3年1月
編集・発行 横浜市市民局スポーツ振興課
横浜市中区本町 6-50-10
045-671-3583
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/>